

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月29日

事業所名 そらば

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		50%	50%	時間差で行い、利用者さん一人当たりのスペースを確保できるように取り組んでいます。	出来る限り、利用者さんが自由に動ける場所を確保していきます。
	2	職員の配置数は適切である		25%	75%	児童部門全体で連携し、送迎の対応をしています。	利用者さんの障害特性に合わせて配置人数を決めていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	50%	25%	階段に手すりや滑り止めを設置しています。	賃貸の為、出来ることは限られますが、身体障害の方も安心して利用できるように、考えていきます。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	50%	50%		昼礼で利用者支援、業務整理等の話をしています。	職員一人一人が業務改善に意欲的になれるよう、情報の共有を密に行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%		目安箱の設置を行っています。	保護者様への周知不足のため活用されていないので、目安箱の活用を積極的にしていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%		毎年、玄関に掲示をしています。	玄関に掲示します。ホームページにもアップし、いつでも見られるようにします。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25%	75%			現在取り組めていないため、取り組めるよう努力します。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	75%	25%		委員会が発足し、研修を行う機会が増えています。	研修の機会があれば、積極的に研修に参加できるようにしていきます。
適切な 支援 の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	75%	25%		担当制で利用者様に関わり、本人さんに必要な支援を早期発見出来るようにしています。	保護者様と定期的に面談を行ったり、担当職員とケース会議を行い、全職員、同じ支援が出来るようにしていきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	25%	75%		年1回保護者様へアセスメントシートを配布しています。	ケース会議を行う際、アセスメントシートを配布して、状況を確認しながら、整理していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	75%	25%		主担当が責任を持って計画しています。	計画が出来た後は、全職員でチェックし、支援ポイントを共有しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	75%	25%		主担当が責任を持って計画しています。	計画が出来た後は、全職員でチェックし、固定化しないようにしています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			平日は送迎時間によって個々に活動内容を検討しています。	個別活動、集団活動、どちらも社会生活に活かせるよう検討しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	50%	50%		将来に向けて社会性を身につけることを目指した支援をしています。	集団活動の中で、個別に必要な支援を中心にしてきましたが、ご本人さんの状況に応じて、最初から個別活動が出来る支援も検討していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			少ない時間でも必要なことは必ず共有するようにしています。	今後も継続し、支援のポイントや活動の注意点をしっかり共有し、安心安全な環境を作れるようにしていきます。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			少ない時間でも必要なことは必ず共有するようにしています。	今後も継続し、利用者さんの状況を常に把握し、次の支援につなげられるようにしていきます。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			担当制を設けることで、効率よく記録をとっています。	担当がとった記録を確認し、都度、その日の利用者様の状況を共有するようにしています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			モニタリングの計画表を作成し、計画の見直しをしています。	計画通り行うことが出来ない時があったので、余裕をもって準備して、計画通りに出来るようにしていきます。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	25%	75%		職員全体でガイドラインを読むよう周知をかけています。	ガイドラインを読み込んで、支援に活かしきれていないため、実行できるようにしていきます。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	50%	50%		事業所に来所してもらい、利用者さんの様子を見てもらっている。	サービス担当者会議の実施がなかったため、担当者会議を積極的に開催していきます。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			送迎時に利用者さんの状況や送迎時間等を確認しています。	情報共有がうまくいかず、お迎えで利用者様にご迷惑をおかけしてしまったこともある為、同じことが起きないように最善の注意を払って対応していきます。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		25%	50%			現在利用的ケア時の利用がないため、体制を整えられていません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		25%	50%			現在、中・高校生を対象としているため、就学前の事業所との関わりがありません。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25%	75%			就労先を確認させていただきながら、安心して将来に向けて動けるようアドバイスを致します。	就労してから困ることが少しでも減るよう、情報の共有を出来るようにしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%			研修がある際は、児童部門全体で参加者を選定しています。	関係機関との連携を密に行い、研修も積極的に参加していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		50%	50%		同法人の施設との交流を取っています。	障がいの無い方とも交流を深められる機会を作っていきたいと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	25%	75%			放課後等デイサービス連絡会に参加しています。	他の放デイさんとも情報共有を行い、地域で障がい者を支えていける事業所を目指します。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				送迎時間を利用して情報共有を行っています。	今後も、口頭で情報共有を行うとともに、連絡帳も活用していきたいと思います。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		100%				現在ペアレント・トレーニングの実行が出来ていけませんので、今後実施出来るようにしていきたいと思います。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	75%	25%		契約時に丁寧な説明をさせていただきます。	保護者様には規定・内容・負担等が変わる時は随時お話をさせていただきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			送迎時にお話を伺っています。	保護者様の悩みを関係者全員の悩みにし、皆で本人さんを支えていけるようにしていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		75%	25%	児童部門全体で保護者会を開催すべきか検討をしています。	現在実施することが出来ていません。今後実施出来るようにしていきたいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	25%	75%		苦情解決について組織体制を整えています。	苦情要望は真摯に受け止め、事業所の改善につなげていきたいと思っています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	25%	75%		ホームページやお手紙で活動を周知させていただきます。	普段の様子を見てもらう機会が少ないため、ホームページの活用を委員会と協力して取り組んで行きたいと思っています。
	35	個人情報に十分注意している	100%			職員間で個人情報の取り扱いについて常に確認しあっています。	今後も個人情報の取り扱いについて定期的に勉強していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	75%	25%		口頭・ジェスチャ・絵カード・対面・電話・メール等で意思の疎通を図っていきます。	個々の能力に合わせた声掛けで、皆さまが理解できるよう配慮いたします。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		25%	75%	活動で地域のゴミ拾いやお散歩をしています。	現在そのような活動は行えていません。将来的には開催できるようにしたいと思います。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	50%		委員会を設置し、いざという時に対応できるようにしています。	マニュアルについて保護者様に周知が行き届いていないため、皆さまに知ってもらえる機会を作ってきたいと思います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	75%	25%		避難訓練を年2回は実施しています。	活動で危険予知の勉強も取り入れ、非常事態が起きた時に慌てず行動出来るように支援していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			研修委員会と虐待防止委員会が協力して、虐待予防をしています。	職員が学び、常に虐待について意識しながら支援していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	75%	25%		契約時に丁寧な説明をさせていただきます。	本人さんの状態を共有させていただき、やむを得ず身体拘束をする可能性があるかと判断した場合は、保護者様と対応を共有したうえで、個別支援計画書に記載することをお伝えしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%		アレルギー一覧表を作成しています。	調理実習。おやつ提供時にアレルギー一覧表を確認し、別のものを提供しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	75%	25%		事業所内だけでなく、児童部門の事例も確認しています。	事業所内のヒヤリだけでなく、他のヒヤリも確認することで、職員の危機管理能力向上につなげています。